

たけひさあきなり

武久 顕也新市長が初登庁

フェア（公正）な瀬戸内市を目指して 攻めの自治体経営に挑戦

前市長の辞職に伴う瀬戸内市長選で無投票で初当選した武久顕也さんが新市長に就任しました。

7月21日、瀬戸内市役所本庁舎に初登庁した武久市長は、大勢の市職員から拍手で迎えられ、歓迎の花束を受け取りました。

その後、就任式では、「厳しい財政状況を踏まえ、無駄を削る一方で、魅力ある瀬戸内市をつくるために必要な投資は積極的に進めていく」とあいさつし、新市長としての決意を語りました。



武久 顕也市長
(40歳・邑久町産田)
平成9～12年旧邑久町議会議員、平成15年英国パーミンガム大学公共政策大学院でMBA Public Service (公共経営管理学修士)取得、平成18年京都大学大学院経済学研究科博士後期課程入学、平成19年関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科准教授

新・瀬戸内市宣言

〈今こそ飛躍の機会〉



7月21日に市長に就任しました武久顕也です。生まれ育った瀬戸内市に貢献したいという一心で、故郷に帰ってきました。

瀬戸内市の財政は決して良い状況とは言えません。解決しなければならぬ課題もたくさんあります。しかし、そのことを理由に飛躍の機会を逃してはなりません。

誇るべき瀬戸内市の良さや素晴らしさを生かし、削るべき無駄は削って、将来の子どもたちのためにできることを一緒に始めましょう。

市民の皆さんは自分たちでできることをまず考えてください。そのような活動を市役所は懸命に支

えていきます。企業・団体の皆さんもまちづくりにぜひ力を貸してください。

以下に私の政策目標の一部を紹介いたします。これは、市民の皆さんとの約束です。これまでの地方自治を専門とした経験をもとに、柔軟な発想と行動力で、攻めの自治体経営に挑戦し、フェア（公正）な瀬戸内市の実現に向けて全力を尽くします。ご支援とご指導をよろしくお願いします。

●休日・救急の際にも頼れる医療環境をつくらう

患者と医療従事者にとって魅力のある医療環境をつくるため、市民病院のあり方をまとめます。また、長島愛生園、邑久光明園の今後のあり方について、市としての方向性を明確にします。

●高齢者を地域で支える仕組みをつくらう

地域ぐるみで高齢者を支える仕組みをつくり、必要なサービスを安心して受けられるようにします。

●子どもを通わせたい学校・園のあるまちにしよう

各学校、幼稚園がそれぞれ工夫して、子どもたちが自ら生きる力や学力を伸ばしていけるような学校・園をつくりまします。また、学校施設の安全性を高めるため耐震化を図り、災害の際にも安心できるまちを目指します。

●10年後を考えて、地域全体で子育てを担うまちにしよう

将来の子どもの数を予測して、地域の実態に合わせた子育て支援の仕組みをつくりまします。子どもの遊び場所をつくり、子どもの病気や夏休みの時にも地域でしっかりと子育てを応援できるようにします。

●錦海塩田跡地近隣住民の生活を守り将来構想を考えよう

排水の問題を国、県と連携しながら解決し、市民の不安をなくします。さまざまな提案を募り、地元住民にとって最も望まれる方法を早急にまとめ、錦海塩田跡地の安全性を高めて、人の雇用と地元

産業への波及効果の高い将来のあり方を考えます。

●瀬戸内らしさを生かした独自性のある強い産業を目指そう

市内外の産業が交わり、発展する機会をつくり、新しい産業を見いだし、まちの経済力を高めます。また、地元の農産物、水産物を瀬戸内ブランドとし、市民や観光客が気軽に買える機会を増やします。農業者、漁業者の経営が安定するような生産基盤の整備をします。

●下水道整備の費用を抑えて受益と負担のあり方を考えよう

下水道の整備に当たって将来の負担を抑える工夫をして、下水道計画の見直しをします。

●市民に役立つ市役所にしよう

・市民や企業がまちづくりに積極的にかかわることができるような補助金などの支援の仕組みをつくりまします。

・瀬戸内市全体の「連結バランスシート（貸借対照表）」を作成し、毎年その改善状況を公開します。